

それでは、ただいまから高市早苗、自民党総裁選挙出馬表明会見を始めます。皆さん、こんにちは。ご多用の中お集まりいただき、ありがとうございます。また、テレビ中継やライブ配信をご覧の皆様もありがとうございます。

私、高市早苗、日本と日本人を心底愛する者として、日本と日本人の底力を信じてやみません。再び自民党総裁選挙に立候補いたします。昨年の総裁選挙以降、私は週末ごとに全国各地を歩いてまいりました。国民の皆様の切実なお声をたくさん伺いました。勤め先で賃上げが物価高に追いつかないのがつらい。中小企業や農林水産業でも、人・モノ・カネのコストが経営を非常に圧迫している。すでに幅広い産業で、いわゆるトランプ関税の影響や先行き不安の声も顕在化しつつあります。また、医療や福祉の継続性など将来への不安、気候変動による農林水産業への影響や多発する自然災害。さらには核兵器を保有する3つの国——いずれも日本の隣国であり、日本は世界に類を見ない「核の最前線」に国土を構えているという現実があります。

内からも外からも、日本は大きな危機に直面しています。この巨大な危機を乗り越えるために必要なのは、今の暮らしや未来への不安を、夢と希望に変える政治。そして巨大なクライシスに立ち向かえる強い政治です。訴える政治、方向性を示せる政治、揺るぎない土台の上に立った安定した政治です。国民の皆様が待っておられるのは、それです。国民の皆様だけではありません。日本よ、強くあれ、頼もしい国であってくれと心から願ってくださっている国もたくさんあります。

「Japan is back」もう一度、日本は声高らかに言わなくてはなりません。2016年8月、ケニアで開催されたTICADで、当時の安倍晋三総理が基調講演をされました。「日本は、太平洋とインド洋、アジアとアフリカの交わりを、力や威圧と無縁で、自由と法の支配、市場経済を重んじる場として育て、豊かにする責任を担う」。まさに日本が責任を担うとおっしゃった。そして日本が主導するFOIP（自由で開かれたインド太平洋）が始まり、今も続いています。翌年以降もクアッド、日本が主導したTPP11、日EU経済連携協定の締結と続きました。まさに「世界の真ん中で咲き誇る日本外交」の歩みを進めた時期です。

私は「明るくなければ未来じゃない。安全でなければ日本じゃない」と考えています。日本をもう一度、世界のでっぺんへ。高い志と熱い思いを胸に、この場に立っています。だからこそ、今、日本の国力を強くしなければなりません。それは外交力、防衛力、経済力、技術力、情報力、そしてすべてを支える人材力です。これらの総合力を強くします。防衛力の裏付けのない外交は弱いと感じることがしばしばありました。また、情報力が弱いと外交力も防衛力も経済力も弱くなってしまう。他方、世界が欲しがる、世界にとって必要な技術力を日本が持っていれば、日本は世界に不可欠な存在となり、日本の平和を守ることにもつながります。

私は何としても日本の国力を強くしていきたいと考えています。先ほど申し上げたとおり、すべてを支えるのは人材力。しかし、とても大事なものは経済力、強い経済です。私はどこまでも経済成長を追い求めます。今やらなければ間に合いません。今スタートすれば間に合います。日本には底力があるからです。

日本は先の大戦の荒廃の中から驚くべきスピードで復興し、成長してきました。私は昭和一桁生まれの両親から、戦中・戦後の混乱期の大変さ、額に汗して働くことの尊さを聞いて育ちました。奈良で大人になるまで育ち、父はメーカー勤務、母は奈良県警勤務の、ごく平凡な共働き家庭でした。今は亡き母の育児日記——昭和36年3月7日「女の子誕生。内閣総理大臣は池田勇人」で始まります。池田総理は所得倍增計画を掲げ、日本は高度経済成長期の真っ只中。裕福ではありませんでしたが、両親は懸命に働き、父は新しい物好きで、ボーナスや給料日にはカラーテレビ、ステレオ、当時まだ高価だった電子レンジなど家電を買ってきました。地方に住んでいても、一生懸命働けば生活が豊かになる、そう体感できた明るく元気な時代でした。1973年の第一次石

油ショックを経ても、高度経済成長は続きました。苦難の後も、日本人は勤勉に働き、貪欲に世界市場を開拓し、技術開発からアフターケアまで日本的ビジネスモデルと呼ばれた優れた製品・サービスで、経済大国として世界の頂点に立ちました。

1990年代以降、バブル崩壊、長引くデフレ、リーマンショック、度重なる大災害、そして新型コロナにも直面しました。アベノミクスで雇用は増え、株価も上がりましたが、現在の日本には何とも言えない閉塞感があります。それでも大丈夫です。日本には世界共通の課題を解決できる技術力がある。大企業だけでなく、地方のスタートアップや研究機関にも、夢を追い、使命感を持って懸命に働く人材がいる。日本経済は成長できる。私は成長させます。

私が最もやりたいことは「大胆な危機管理投資」と「成長投資」です。危機管理投資と成長投資で、暮らしの安全・安心の確保と強い経済の両立を実現します。世界の潮流は、行き過ぎた緊縮ではなく、社会課題の解決に向け官民が連携して投資を拡大する「責任ある積極財政」への移行です。リスクを最小化し、先端技術を開花させる戦略的な財政出動は、暮らしの安全・安心の確保とともに、雇用と所得を増やし、消費マインドを改善し、税収の自然増につながる強い経済を実現します。

第一に、今最も急ぐのは生活の安全保障、すなわち物価高から暮らしを守ることです。ガソリン・軽油の暫定税率を段階的に廃止し、地方財源も確保します。人手不足の中で就労時間調整の一因となっている「年収の壁」を引き上げます。与野党合意に基づき、しっかり進めます。働く意欲を阻害しない制度へと転換します。即効性のある対策として、自治体向けの重点支援交付金を拡充し、地域ごとの実績に合った支援を速やかに実施します。交付金の使途は自治体が決めますが、国は推奨メニューを添えられます。例えば、賃上げ減税の恩恵を受けにくい地方の中小・小規模事業者への賃上げ補助金、コスト高に苦しむ農林水産業への支援などを盛り込みたい。

中低所得者の負担増、つまり逆進性の高い社会保険料を軽減し、給与・収入に応じて手取りが増えるようにする「給付付き税額控除」の制度設計も進めます。数年かかる取り組みですが、とても大切です(拙著にも記しました)。

第二に、経済安全保障の強化と関連産業の育成です。海外からの投資を厳格に審査する「対日外国投資委員会」を設置します。経済安保に不可欠な成長分野——AI、半導体、ペロブスカイト、全固体電池、デジタル、量子、核融合、マテリアル、合成生物学、バイオ、航空、宇宙、造船、創薬、先端医療、送配電網や港湾など——分野ごとの官民連携フレームワークを作り、積極投資します。

第三に、食料安全保障の確立です。日本は四方を海に囲まれ、貿易の99.5%が海上輸送です。万一、周辺有事で海上輸送が止まったら、あるいは世界的な気候不順で絶対的な食料不足が発生したら、私たちの生存に関わります。ロシアによるウクライナ侵攻では小麦や肥料原料の供給が滞りました。食料安全保障は世界的課題です。私は政調会長として自民党に「食料安全保障に関する検討委員会」を設置しました。80回を超える議論の結果、昨年四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正されました。改正後の初動5年間(令和7~11年度)は農業構造の転換・集中対策期間。ここで大胆な集中投資を行い、田畑を含む資源をフル活用できる環境を整えます。

日本には準天頂衛星「みちびき」があります。世界最高レベル、誤差数センチの測位精度です。諸外国の測位衛星の誤差が5~20メートル程度なのに比べ、センチメートル級です。この日本の測位衛星と国産ドローンを活用し、秋田県では種もみの直播や農薬散布を高精度で実施し、収穫量も田植えと遜色ないと聞いています。来年度には「みちびき」は常時稼働体制となり、米GPSに頼らず、中山間地域でも使え、基地局も不要で苗を育てるコストも削減できるなど、新たな農業

の形に繋がります。私の名前は「早苗」でもあり、苗を育てて田植えをする農業にも思い入れがあります。

この世界一の測位技術は自動運転やロボット農機によるスマート農業にも使えます。再エネや気象衛星・観測技術のデータ解析で農家の負担軽減にも貢献できます。完全閉鎖型植物工場や陸上養殖施設など、世界最先端の技術を持つ日本のスタートアップの研究開発を進め、国内外市場に展開していかなければなりません。日本の食料自給率よりもはるかに低い国々が市場になります。全国の農林水産物・食品の輸出も拡大します。例えば昨年、G7閣僚会議で訪れたイタリアのレストランのメニューに「グルテンフリー」と多く表記があり、小麦アレルギーが多いと感じました。日本にはグルテンフリーより厳しい「ノングルテン」という基準があり、日本の米粉を国内で加工して世界に展開すれば、日本に富を呼び込みます。高級食材、加工食品、特に冷凍食品など、世界の富裕層にも届くものが日本にはあります。

第四に、エネルギー・資源安全保障の強化です。日本のエネルギー自給率は昨年の会見時12.6%から、今は15.2%になっていますが、世界的にデータセンターの増加や生成AIの登場で消費電力が急増しています。海外流出した製造業の国内回帰を促し、日本のものづくりを守るためにも、特別高圧・高圧の電力を安価に安定供給できる対策が必要です。まず、安全確保を前提とした原子力発電所の稼働。次いでシンプルで安全性の高い次世代革新炉の実装。そして2030年代には、ウランもプルトニウムも不要で高レベル放射性廃棄物も出さない究極のエネルギー——核融合の時代がやってきます。化石燃料依存による国富流出や資源国に頭を下げる外交を終わらせ、エネルギー自給率をできれば100%へ引き上げたい。

日本は核融合関連技術で強みがあります。閣僚として日本発の「フュージョンエネルギー・イノベーション戦略」を策定・発信したところ、日本のスタートアップに世界から多額の投資が集まりました。これらの技術は医療や精密工業、宇宙・海洋などでも数年以内に事業化が見込めます。一方、これ以上、美しい国土を外国製の太陽光パネルで埋め尽くすことには懸念があります。初期型太陽光パネルの安全な廃棄も課題です。従来型パネルのシリコンの百分の一の厚みで曲がる「ペロブスカイト太陽電池」は日本で開発されました。国内外に展開し、富を呼び込みます。全固体電池にも期待します。地政学リスクに備え、国産資源開発・共同開発にも積極投資します。

第五に、現在と未来の命を守る「令和の国土強靱化」です。国・自治体共同でシミュレーションを行い、各地のリスクを点検し、事前防災に必要なハード・ソフトを整備します。下水道の老朽化対策と同時に、法定耐用年数が短い上水道の老朽化(40年超が約14万キロ)も深刻です。SAR(合成開口レーダー)や気象衛星のデータをAI解析すれば、100m四方の漏水地点の推定も可能です。高層ビル等の老朽化把握も進みます。首都機能バックアップ体制も構築します。防災関連産業は成長産業になります。

第六に、私のライフワークであるサイバーセキュリティ対策の強化です。ようやくアクティブ・サイバーディフェンスの法整備にたどり着きましたが、高度化するサイバー攻撃、プロパガンダ、偽情報に対応できる高度技術・人材育成が極めて重要です。関連産業基盤を構築します。

第七に、健康・医療安全保障の構築です。地域の医療・福祉現場は深刻です。コスト高に応じた診療・介護報酬の見直し、人材育成支援が重要。攻めの予防医療を推進し、医療費適正化と健康寿命延伸を両立します。がん検診の要精検者のうち、精密検査受診率が約4割にとどまる実態の改善、国民皆歯科検診の徹底などを進めます。ワクチンや医療技術は経済安保の観点からも、原材料・生産・人材を国内完結できる体制を構築。再生・細胞医療、遺伝子治療、革新的ながん医療、認知症治療などの研究開発を推進します。

これらの危機管理・成長投資は、日本が先手を打てば大きな成長投資になります。リスク低減には費用がかかるかもしれませんが、需要を呼び覚ます効果もあります。日本が強い技術分野の国際競争力強化や人材育成にも戦略的支援を行います。技術の花が咲くところに成長の花も開きます。半導体に限らず、地方ごとに成長分野の産業クラスターを設け、世界をリードする技術やビジネスが地方から生まれる姿を作ります。政府の役割は、有望技術に十分な資金と優秀な人材が集まる環境を整えることです。

健康維持が大事かと問われて「大事ではない」と答える人はいません。経済も同じ。大切なのは「成長すること」であって、財政健全化そのものを目的化しないこと。財務省には、これをやれば成長し、経済規模が10年で倍になる——そのくらいのマスタープランを示していただきたい。財務省には国民の幸せと国の成長のために働く優秀な方が大勢おられます。本気を出して日本経済を伸ばし、税収を増やし、財政状況も改善する——そんなプランを示してほしい。もちろん私も先頭に立ちます。責任ある積極財政とワイズ・スペンディングで日本経済を成長させます。核融合や宇宙など、国家戦略を明確に示せば自然とスタートアップに民間投資が集まります。日本にまだまだある「成長のスイッチ」を入れ、経済が音を立てて動き出すよう、一気に仕掛けます。それが王道であり、多くの国民に夢と希望を与える道だと確信しています。

これらすべてを支えるのは人材力。人手不足への対応を急ぎ、全員活躍の形を作らねばなりません。私は人生で3回の看護・介護を経験しました。それだけに介護や育児、お子さんの不登校などで離職される方を減らしたい。キャリアを諦めなくて済む社会を作りたい。例えば家政士を国家資格化することを前提に、ベビーシッターや家事支援サービス費用の一部を税額控除する制度設計を検討したい。企業主導型の学童保育事業も創設したい。企業内保育や病児保育に取り組む企業には法人税減税を考えます。朝、出勤前にお子さんが熱を出して保育所へ送れず困っている方がたくさんおられます。そうした取り組みを進めます。

また、女性が元気に長く働くため、女性の健康を支える政策を、私は一期目の政調会長時(平成25年)から検討してきました。私自身、40代前半から更年期障害が始まりました。急な発汗などの症状——更年期にかかりやすい病気もあります。私も足の関節痛で通院しましたが、当初は痛み止めと湿布のみ。その後別の病院で、更年期にかかりやすい関節リウマチと診断。診断までに時間がかかり関節の可動域を失い、今は人工関節ですが品質は高く長期間もちます。同じ思いをする方を増やしたくない。すべての診療科の医師が、更年期の女性が訴える不調から想定される病気を理解し、女性側も正しい知識を持てるようにしたい。生理も更年期もつらいもの。学校や職場で、男性にも理解していただけるよう啓発を進めます。議論は長く紆余曲折もありましたが、自民党同僚議員の尽力で、平成6年度に女性の健康ナショナルセンター機能の構築が新規事業として開始。今後、予防・病態解明・治療・社会啓発が進むと期待しています。労働時間規制は難しい課題ですが、心身の健康維持と本人の選択を前提に緩和の方法がないか検討します。残業代が出ないからと、勤務後に慣れない副業に出る方の健康が心配だからです。

防衛力と外交力を強化し、日本の平和を守ることは当然に重要です。日本にとってアメリカは唯一の同盟国、日米安保条約があります。ただし、日本が武力攻撃を受けたとき、米軍が自衛隊より前に出て戦う仕組みではありません。日米防衛協力のための指針(ガイドライン)には「日本は国民および領域の防衛を引き続き主体的に実施し、武力攻撃を極力早期に排除するため直ちに行動する」とあります。直ちに行動するのは自衛隊。米軍は自衛隊を支援・補完すると書かれています。主体的に日本を守るのは自衛隊です。宇宙・サイバー・電磁波領域、自律型AI兵器、ドローン、極超音速兵器など新たな戦いに対応し、国民を守り抜く体制を整備し、自衛隊員の待遇改善と良いキャリアパスの構築も大切です。

私が注力したいのは、海底ケーブルと衛星の防護です。海底ケーブルの敷設位置は海図で公開され、事故防止に資しますが、悪意ある国が切断した場合、衛星通信でバックアップできると防衛省は言います。最悪、海底ケーブルが切断され、衛星も破壊型兵器で機能不全になれば、日本の防衛は成り立ちません。宇宙空間の安全保障でも日本のスタートアップは世界一の技術を持ち、米宇宙軍とも契約しています。日米安保の強化、日米韓・日米比の防衛協力に加え、防衛装備品の開発・調達を通じて、英国・イタリア・豪州など“準同盟国”との関係も深化。デュアルユース技術による防衛関連産業の育成、民生へのスピノアウトは経済成長に貢献します。

今、日本はF15・F35などを運用しています。戦闘機開発の過程で、ETC、車載型衝突防止装置、物流タグなど、生活を便利にする技術が生まれました。F2戦闘機の後継として2030年代に配備予定の最新鋭戦闘機は、日英伊の共同開発。最高レベルの技術と情報を持ち寄り、研究開発から運用・メンテまで数十年の強い絆が生まれます。生活を豊かにする新技術・新産業が生まれ、経済成長にもつながると期待します。主要駅や大規模建築の建設時に地下シェルターの設置を義務付ける「地下シェルター設置法」の検討も必要です。平時は保管庫として活用できます。難しい課題ですが、検討しておかなければ間に合いません。

外交では、FOIPの進化による同盟・同志国との連携強化、CPTPP加盟国の拡大、日EU経済連携協定の活用など、主体的で多角的な経済外交を展開します。北朝鮮による拉致問題は、北中露の関係進展により解決が極めて困難な状況だと理解していますが、亡くなられた親御さんの無念、高齢となり残された時間がない親御さんの焦燥・悲しみを思うと、あらゆる手段を通じて全拉致被害者の一括帰国に向け心血を注ぎます。

日本の国土と国民の命を守るため、インテリジェンス関係省庁の司令塔としての国家情報局の設置を目指します。外国人政策の司令塔機能も強化し、不法滞在対策や土地取得規制の見直し等を検討します。自由民主党の総裁を目指す者として、申し上げねばならないのは、第一に「時代の要請に応えられる日本国憲法の改正」。第二に、男系の皇統をお守りするための皇室典範改正です。126代続いてきた皇室は世界に例のない、私たちの大切な存在です。

そして自民党を立て直します。3度の大型選挙で敗北しました。国民から信頼され、頼れる、夢と希望を配り実現できる、伝統と誇りを持って進む、自民党。憲法改正の議論をリードでき、専門人材の多さを強みにする自民党へ。世代交代論はいろいろありますが、年代ごとの経験と知を政策に生かすことが必要です。全世代の声に応えられる「全員活躍」、全国の党员・党友の声を党本部に集め政策に生かす仕組みを作ります。

昨年この会見でも触れましたが、先月、ある映画が地上波で放送され、私もまた見て泣きました。終戦間際の鹿児島に現代の女子高生がタイムスリップし、出撃前の特攻隊の青年と恋に落ちる物語。彼女は未来から来たので日本が敗戦することを知っている。かなわぬ恋。現代に戻った彼女は気づくのです。「私たちが生きている今は、誰かが命懸けで守ろうとした未来だ」。この言葉は重い。誰かが守ってくれた未来を、今、私たちは生きています。今の時代をお預かりしています。だからこそ、日本列島を強く豊かにし、安全な国にして、次の世代へ送る責任がある。

夜遅くに私は考えます。私が亡くなってから半世紀後、21世紀の終わりの方、22世紀はどうなっているのか。考えると居ても立ってもいられない。今、私たちは働く使命を果たすとき。今やっておかなければならない。政府専用機を地上につなぎ止めているのは誰ですか。毎月一回は少なくとも各国を訪れ、日本を売り込み、存在感を高め、より高い位置へ日本を押し上げたいと考えています。日本の良さ——それは大事なものです。日本をもう一度力強く。白地に赤い日の丸を、日本人一人ひとりが健やかな誇りと静かな自信とともに見上げられるように。世界の方々も日の丸を見るたび「美しい」「いい」「頼もしい」と思ってくれますように。私は命懸けで働き、国家の究極の使命

——国民の生命・財産を守り抜き、領土・領海・領空・資源、そして主権と名誉を守り抜く——を果たします。長時間になりましたが、ご清聴誠にありがとうございました。